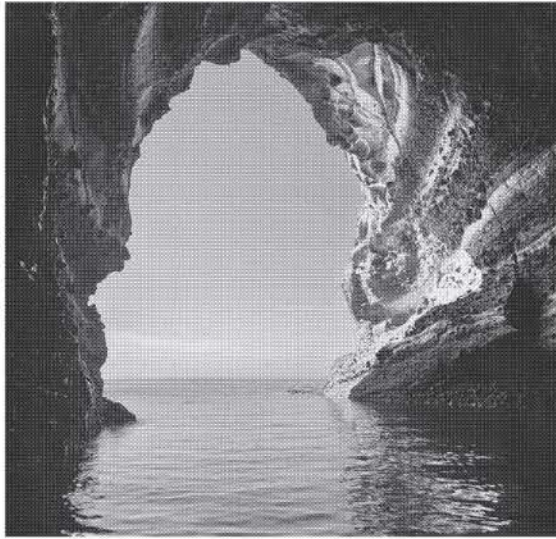


「知られぬ日本の面影」の島根



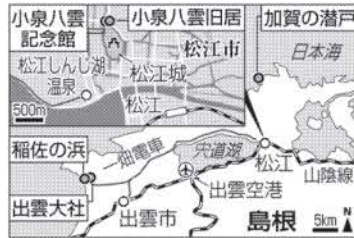
加賀の潜戸の新潜戸

後に小泉八雲と名乗る作家ラ
フカディオ・ハーンが、英語教
師として松江市に來たのは18
90年の夏。出雲の人々の自然
観と伝承世界を愛した彼は、紀
行文学「知られぬ日本の面影」
を著した。

ハーンが3度訪ね、西洋人で
初めて本殿へ昇殿を許されたの
が島根県出雲市の出雲大社。日
本の「国つくり」をしたとされ
る大國主神を祭る。立派な島居
をくぐって参道を歩く。周囲の
木々からは威厳が漂ってくる。

物語を
ゆく
歴史編

■7■



想像力がき立てるAの国

282



出雲大社の本殿

ハーンが愛した自然観

バチ、バチ。彼が「竜のよう」と表現した、参拝者の手をたたく音が、拝殿に響いた。

西に約1kmの稲佐の浜は、旧「汲み」という風習。日々の暮らしと神の世界の距離が、ここです。

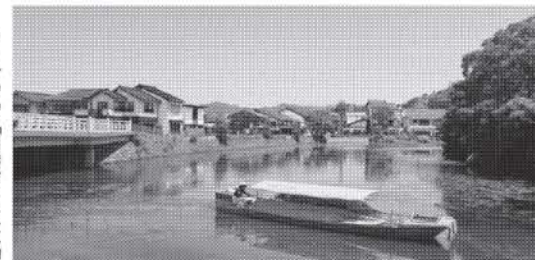
続いて松江の中心部へ。天守が現存する松江城について、ハーンは「怪奇なものを寄せ集めてできた竜のよう」とやや冷淡。市井の神社の方がより魅力的だったようだ。

小学校高学年
高校生向け
年組

メモ ラフカディオ・ハーン 1850～1904年。ギリシャ生まれ。英仏で教育を受け19歳で渡米、新聞記者に。松江滞在中に妻セツと出会う。その後、熊本、神戸、東京に転居。96年、日本国籍を取得して小泉八雲を名乗り、東京帝国大や早稲田大で教授に立った。セツをモデルにしたNHK連続テレビ小説「ばけけ」が今秋から放送中。

遊覧船が通る堀沿いを行くと、武家屋敷の並ぶ一角に彼が妻セツと暮らした旧居が残る。お気に入りの旧居が残る。お気に入りの旧居が残る。お気に入りの旧居が残る。

もう一つの「旧潜戸」には若い死者の魂が集まるとされ、小石を積んだ塔が無数に広がる「賽の瀬」は、ひんやりとした悲しい。石を崩せば子の霊が積み直すといい、歩く際は注意を。ハーンが描いた風景は、今も神秘への想像力をかき立てる。



遊覧船が連航されている松江城周辺の堀

設問

- 【1】後に小泉八雲と名乗る作家は誰ですか。記事の文章をよく読んで答えましょう。
- 【2】【1】の人物が松江市に來たのは何年ですか。
- 【3】【1】の人物が西洋人で初めて本殿への昇殿

を許されたのはどこですか。記事の文章をよく読んで答えましょう。

- 【4】見出しの空欄Aに入る語句を漢字1文字で考えて書きましょう。
- 【5】出雲大社の参拝者の手をたたく音を小泉八雲は何と表現しましたか。